

会 議 録				
令和7年度第2回 在宅医療・介護連携 推進会議	日 時	令和7年10月23日(木) 午後7時～午後8時20分	場 所	Web会議及び 市役所第二庁舎 801会議室
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出席者	委 員	委員長 斎藤 寛和 委員 岩田 卓也 委員 森田 洋彰 委員 斎藤 優喜子 委員 坂本 美和 委員 布川 修 委員 森田 和道 委員 高野 美子 (小金井きた地域包括支援センター) 委員 田口 重和 (小金井みなみ地域包括支援センター) 委員 高橋 徹 (小金井ひがし地域包括支援センター) 委員 久野 紀子 (小金井にし地域包括支援センター) 委員 菊谷 武 委員 伊藤 直樹 (日常療養支援・多職種連携研修部会長) 委員 竹田 遼 (入退院支援部会長) 委員 大井 裕子 (急変時対応・看取り支援部会長) 委員 田中 功一 (ICT連携部会長)		
	事務局	高齢福祉担当課長 磯端 洋充 介護福祉課主査 加藤 勇一 介護福祉課包括支援係主事 原 千咲 小金井市在宅医療・介護連携支援室 川崎 恵美 認知症施策事業推進委員会委員長 竹田 溪輔 (参考人)		
傍聴の可否	◎ 可 ・ 一部不可 ・ 不可		傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1 開 会				
2 議 題				
(1) 地域の課題分析のための指標について				
(2) 各部会における検討状況				
(3) 東京都在宅療養ワーキンググループについて				

- (4) お元気サミットの開催について
- (5) 認知症施策事業推進委員会について（報告）

3 その他

- (1) その他
- (2) 次回開催予定

令和8年2月12日（木） 午後7時から

4 閉会

1 開会

（事務局）

事務局から事務連絡及び配布資料の確認を行った。

2 議題

- (1) 地域の課題分析のための指標について

（事務局）

（資料1）従前より、地域の課題分析のため様々な指標について毎年更新していくことと決定している。本日で示しているのは、令和7年度に更新したものである。なお、根拠となるデータについて、更新がなかったものについてはその旨の表記をしている。

（資料1-1）様々な介護保険関係のデータを閲覧できる厚生労働省の地域包括見える化システムから更新データを取り寄せている。要介護者認定の推計については、各段階において増加の傾向を示している。なお、令和8年度までの推計値である。トピック的なところを抜粋して説明する。

（資料1-9）訪問系の介護サービスの回数・金額を示した資料である。令和5年度までの実績値と、令和6年度以降は現在、計画が実施されております介護保険事業計画第9期におきまして推計された数値に更新している。なお、来年度の令和8年度からは第10期の計画改定期間に入るため、そちらで改めて推計される数値に変更したい。介護保険事業計画と併せて新たな認知症に関する基本計画も策定することとなっている。

（資料1-10）

訪問介護系の事業所は前年度26か所から31か所に増えている。職員数は426人から累計で455人と増加はしているが、居宅介護支援、ケアマネジャー、訪問系の職員についての人材確保には依然課題がある。国においてもケアマネジャーの資格要件の緩和に向けての議論がなされるという報道があったが、本市でも特に訪問系の介護人材の確保は課題があると捉えており、現在、訪問介護事業所で就労される方には優先的に資格取得費の補助の実施をしている。また今までは一定か所での集合研修を実施していたが、来年度からは資格取得費の補助に移行するため、現在、予算要求等の検討を行っている。

(資料1-12) 訪問看護事業所数については変更がなく、職員数は、資料元の介護サービス情報公表システムの統計情報で確認できた事業所の保健師・看護師の人数を記載している。一部確認できないところがあり、合計すると前年より減っているように見えるが、事業所数が変わっていないため、特段減少はないと考えている。

(資料1-16) 介護サービス事業所数の26市比較である。人口10万人当たりの比較となっており、小金井市は大体中間地点、平均値で、突出して多い、少ないということはここでは推測できない。

(斎藤委員長)

意見、質問はあるか。

資料1-12で看護師が減っているように見えるが、その要因は何か。訪問看護ステーションリカバリー小金井事務所が、令和6年度85人も看護師が常勤でいたのに、令和7年度は空欄になっている。

(事務局)

東京都介護サービス情報公表システムを一件ずつ確認したところ、事業所数についての掲載情報公開がなく、厳密に減っているとは断言できない。

(斎藤委員長)

まず事業所数が17にも増えた。たしか10年前には6とか7だったと思う。

ほかに何かあるか。

(布川委員)

以前、市役所で初任者研修をやっていたが、どのくらいの方が応募してきているのか。

(事務局)

初任者研修に関しては5人という状況で、日中の決まった時間に都合が合わない方もおり、参加いただくための実施方法に関する課題や、予算に上限があり、難しい点が多い。

(布川委員)

今後も来年、再来年と続けるか。

(事務局)

今後は研修を実施するよりも、実際に資格取得でかかった費用について直接補助するほうがよろしいのではないかと検討している。

(斎藤委員長)

資料1-9で訪問入浴だけがどんどん減っているような感じがするが、これは事業者が減っているということか。

(事務局)

現状では桜町訪問入浴ステーションの1か所だけである。

(伊藤委員)

居宅介護支援の立場から訪問入浴の現状をお伝えすると、基本的には市外のアサヒサンククリーン三鷹やアサヒサンククリーン小平、ニチイといったところをお願いしているのが実情で、市内でお願いすることは各ケアマネジャーがほとんどできていない、できない状況である。

(斎藤委員長)

桜町訪問入浴ステーションもお願いできない状況か。

(伊藤委員)

そう認識している。

(斎藤委員長)

同じく介護サービスの増加の度合いについて、要介護者・要支援者の増加に比べてとても多いような気がする。要介護者はそんなに増えていなかったと思う。資料1-1の認定者数だけ見ても、令和2年度が5,300人で、令和7年だと5,800人だから1割程度の増加だが、例えば訪問看護は7年間で倍近く増えている。これはサービスが周知されたこともあるのかもしれないが、これだけ増えている要因を調べていただけたらと思う。

(事務局)

今後分析させていただきたいと思う。

(斎藤委員長)

それとこの表の書き方について、大体の資料は左から右へ年度が進むが、資料1-10辺りから右から左に行く。これは左から右に年度が進んでいくようにしていただいたほうが分かりやすいかと思うので、次回そのようにお願いしたい。

(事務局)

対応する。

(森田和道委員)

先ほどの訪問看護事業所の増加と訪問介護事業所の苦境を鑑みると、介護報酬の体系そのものが訪問看護事業所にとってはうまみのある報酬体系で、訪問介護事業所は本当に報酬も減ってなり手が少ないという状況なのではないかと捉えている。その辺も事業者数の増減に関わっているのか調べていただきたい。

(斎藤委員長)

介護報酬の制度の問題点な感じがする。

ほかに何かあるか。

ないようなので、議題1はこれで終わりたい。

(2) 各部会における検討状況

(事務局)

(資料2) 在宅医療・介護連携推進会議の各部会における検討状況をまとめた。この後、各部長から簡単に報告いただければと思う。

(斎藤委員長)

どの部会も順調に回を重ねていただいているようだ。

まず日常療養・多職種連携研修部会の伊藤部長から報告いただきたい。

(伊藤委員)

7月15日対面とウェブで部会を開催した。次回の研修はカスタマーハラスメント研修と確定した。また、前年度までに部会の目指す姿の達成に必要なことを話し合ったのだが、話し合っていくうちにぼやけた内容になってしまい、本来導き出すべき話と少し違う方向に向かってしまったため、今後、もう一度立ち返って日常療養支援とは何なのかという定義と対象範囲を明確化する予定である。

昨今、近隣住民同士の関係が非常に希薄になっており、守秘義務等もあって、隣人が倒れた時にすぐ救急に電話するというのもなかなか難しい世の中になっている。なので、地域として自治会や民生委員の方の見守りも活用して、医療・介護の職員とも連携していくような新しい地域の形ができないか今後考えていければと思って話し合いを再開している。経済的な問題が医療・介護を受ける上で避けては通れない問題となっており、権利擁護事業や成年後見制度の担当者も部会のメンバーとして入ってもらえるかどうか、メンバーの選考に関しても考える余地があるという話し合いになった。

その後、カスタマーハラスメント研修が9月24日に開催された。全体的な印象として30数名の出席者ということで、周知の仕方に問題があったのかもしれない。せっかく多職種で集まっている部会で、メンバー自体がネットワークを持っているのだから、もう少しその辺を活用して周知すべきだったと思う。カスタマーハラスメントという内容的にはそれぞれ個人や企業が取り組む問題であって、地域として話し合うべき問題ではないという考え方も広くあるように感じた。今後は研修の内容だけではなく、周知の仕方も考えていきたい。

(斎藤委員長)

次に入退院支援部会の竹田部長から報告いただきたい。

(竹田委員)

9月11日に会議を行った。今まで入退院支援多職種フロー図という案があったのだが、介護保険サービスにつながっていない人、まだケアマネジャーがついていない人のフローが足りていないという声が上がっていたので、それを補足して1枚の紙にまとめた。詳細に関しては見え方、見せ方の部分、誤字の修正が必要だが、きれいにまとまった図になったので、今後これを活用しながらシンプルに共有していければよいと思う。

(斎藤委員長)

そのフロー図は今日はないのか。

(事務局)

今日は用意していない。

(斎藤委員長)

メールでもよいので全員に回してもらいたい。

I C T連携部会の田中部会長から報告いただきたい。

(田中委員)

第2回I C T連携研修会に関しては10月17日夜7時からオンライン形式で開催した。研修テーマは「高齢者介護分野におけるデータヘルス改革と介護情報基盤の整備 医療・介護連携に欠かせないI C T、D X化」で、講師は東洋大学教授の高野龍昭先生にお願いした。その中で2025年度から介護保険制度の一環としてスタートする介護情報基盤の整備において保険者と事業者、介護専門職にI C T、D X化が喫緊の課題となることなどを教えていただいた。

今後の研修会としては来年度になるが、第1回の研修会で行ったM C Sのチーム機能についていま一度行って、その理解をさらに深めたいと思う。前回のこの会議でM C Sのチーム機能を活用できていない施設が多いのではないかという意見を頂いたためである。また東京都在宅医療推進強化事業について事務局から説明があった。この事業は、令和5年度から令和7年度まで小金井市医師会が東京都からの直接補助によって実施していたもので、令和8年度以降は本事業が医師会から市に移管される予定であり、詳細はこれから決定される。本事業は、在宅医療の24時間診療体制を構築する観点から、I C T、D Xの活用を推進する事業として市が主体的に実施する予定となっているが、その進め方は本部会員に意見を頂きながら検討したい。本事業は24時間診療体制推進事業とデジタル技術を活用した医療D X推進事業からなっており、医療D X推進事業についてはシムビューというアプリを用いて行っている。以上、報告である。

(斎藤委員長)

ありがとうございました。

急変時対応・看取り支援部会については、部会長に代わって事務局から報告いただく。

(事務局)

第2回急変時対応・看取り支援部会は令和7年10月1日に、原則対面で行った。お元気サミットで在宅医療・介護連携の関係で、「もしものときのために知っておこう！脳梗塞編ー選択を迫られる人工呼吸のこと、人工的栄養のことー」と題し、寸劇をやることになっていたため、部会員で当日の役割分担及びリハーサルを行った。この部会を受けて台本を修正し、当日に向けて準備していく。

(斎藤委員長)

以上で、4つの部会からの報告を受けたが、何か意見、要望等があればお願いしたい。

では、私から、日常療養支援・多職種連携研修部会のカスタマーハラスメント研修に

ついて、大変時宜を得た企画だったと思う。地域で考えることではないのではないかと
いうことだったが、やはり十分地域で考えていくべきことだと思ふ。今後また新しい企
画をお願いしたい。

入退院支援部会については、介護サービスを受けていない、つながっていない方々に
ついてどのような支援ができるかということフローに入れていただいたということ
で、ぜひ実物を見てみたい。うまく進めていただいて大変感謝している。

I C T連携部会についてはデータヘルス改革の新しい動き、I C T、D X化は避けて
通れないことで、医療・介護連携についても着々とこれが進んでいるようなので、また
いろいろ教えていただければと思う。ぜひまたこのような内容で話を聞きたい。

急変時対応・看取り支援部会は毎年お元気サミットで寸劇や朗読劇を実施していて、
市民に対して大変アピールできているのではないかとと思ふ。これからもどんどん進めて
いただきたいと思ふ。

(3) 東京都在宅療養ワーキンググループについて (事務局)

令和7年度東京都地域医療構想調整会議、在宅療養ワーキンググループは毎年度北多
摩南部医療圏域ごとに開催される会議であり、決められたテーマに向けて議論し合うも
のである。本年は11月25日の夜7時から開催されることになっている。医師会から
竹田遼医師と富永医師に出席いただく。行政側からも1名参加する。

議題については資料3概要にあるとおり、これまでの在宅医療・介護連携事業の振り
返りと、2040年に向けた取組、人口構成の変化等、様々な課題がある中で、その取
組の方向性についての意見交換ということである。

議論の中身に関しては、平成30年度に介護保険法が改正され、在宅医療・介護連携
推進事業が位置づけられたところだが、その構築を今も進める中で、その取組を振り返
り評価できる点あるいは今後の改善点等について、とのことである。また現行の地域医
療構想では、病床の機能分化や連携を中心としていたところから、新たな地域医療構想
では外来・在宅、介護連携を対象とし、これまでの取組の評価、さらに今後どのような
取組を進めるべきかということが議論になる予定である。

(資料3-2-1) 本会議の設置要綱等の会議内容、さらに当日示されるテーマごと
の資料となっている。

資料3の追加として、事前課題、事前に討議する内容について意見を述べたものであ
る。竹田遼医師と富永医師、行政からも課題ということで提示させていただいた。こち
らについてさらに議論を進めていく形になる。ただ、会議は1日のみであるため、総括
的な意見としてまとまったところでまた皆様に意見をいただきたいと思ふ。本日配布し
た資料を確認いただき、この場でも会議終了後でも結構なので、意見をいただければ

当日の会議に反映させたい。

(斎藤委員長)

在宅療養ワーキングは非常に重要な会議であると思う。小金井市から出席する方々の現実的な意見がいろいろ書いてあるので、非常に勉強になる。

何か意見はあるか。

(4) お元気サミットの開催について

(事務局)

(資料4) 今年度のお元気サミットは11月12日、13日の午前10時から午後4時まで宮地楽器ホールにて開催する。

在宅医療・介護連携として、脳梗塞に家族が罹患した場合を想定した寸劇を看取り部会の皆様により実演いただく。その後は、大井医師に講師を依頼し、ワークショップという形でカードを活用して、介護している方や自身が療養中の方で、大切にしたいことを具体的に考えてみる体験になっている。

また医師会の在宅医療に関する展示や看取りのリーフレット等の配架も行いたいと考えている。

そのほかの事業全体について、生活支援の分野では、「やりたいことをみつけて企画・実行してみよう」というテーマで地域デビュー講演会を実施する。ある一定の年代の方は地域とのつながりを自分で構築することが難しいという観点もあり、地域のつながり方について実績のある方に講演をしていただくことになっている。また認知症の分野については「認知症世界の歩き方」と題して、認知症地域支援推進員の方を中心に、認知症の当事者を知ることをテーマとして啓発活動を実施する。お元気サミットへの来場者は高齢の方が多いが、もう少し若い方への啓発も工夫して行っていきたい。

また、お元気サミットは小金井市介護事業者連絡会との合同イベントでもあるので、介護予防に関するディスカッションやフォーラムの開催、また介護用品・福祉用具等の展示も予定している。

皆様には、できる限りの周知に協力いただきたい。

(斎藤委員長)

大変いろいろな企画をしていただき、ありがたい。

意見、要望等はあるか。

この中で認知症分野ではVRか何かをやるのか。

(事務局)

VRではない。

(斎藤委員長)

歩き方というのはどういうことか。

(事務局)

認知症の方には世界がどのように見えるかということを知症地域支援推進員を中心にワークショップ形式で実施するプログラムである。

「認知症世界の歩き方」というコンテンツが書籍や動画などで発売、配信されており、イラストやアニメーションを使って認知症の方が見えている世界を表現しているものである。カード形式のワークショップができる素材があり、一定の研修を受けた方がそれを使用したワークショップの実施や講義ができるような仕組みとなっている。認知症地域支援推進員の中でその研修を修了した者がいるので、今回開催する。カードを使って考え、動画を見て、様々な目線で楽しみながら学べるプログラムになっていると思う。

(斎藤委員長)

一方通行のものではなく、参加型と考えていいのか。

(事務局)

認識の通りである。

(斎藤委員長)

ほかに何かあるか。

(森田和道委員)

小金井市介護事業者連絡会は、11月12日午前10時から正午まで小ホールで「いつまでも『健康』で暮らせるために」と題して、2部形式のプログラムを実施する。1部はフォーラム、2部が体操の実演を企画している。1部のフォーラムでは介護に携わる事業者から見たいろいろな視点からの健康について、ディスカッションする。例えば健康というのは体だけではなく、心の健康、あとは家族関係の健康、経済的な健康、地域社会の健康など、様々なことが自分の健康に関わってくると思う。2部では、ヨガと、最後にさくら体操を実演する。ぜひ市民の方にお声かけいただければと思う。

(斎藤委員長)

大変盛り沢山だ。

歯科医師会は何か展示するのか。

(事務局)

歯科医師会も去年から展示していただいている。

(斎藤委員長)

薬剤師会はどうか。

(事務局)

薬剤師会も展示していただく。

(斎藤委員長)

では、三師会はすべて参加するということだ。

今後も参加型のものが増えてくるとよい。大分充実してきているのではないかと思う。

ほかに何かあるか。

(久野委員)

私は2層の生活支援コーディネーターという役割も担っているが、11月12日の地域デビュー講演会は、東京新聞の元政治部の記者の方が実際に自身が地域デビューされた経過や、やってよかったことなどについてお話しくださる内容になっており、1時間程度のプログラムである。その後30分間ではあるが個別相談を実施する。翁味会という男性の料理教室の代表の方やシニアSOHOというシニアの方が勉強されるような団体の方、写友会という写真撮影をして撮ったものを持ち寄って講評してもらったりするような会の方、シルバー人材センターの方など、地域に根差した活動をされている方々が協力してくださる。興味のある方はぜひ来ていただきたい。

(斎藤委員長)

以前、イベントスペースにキッチンカーが来ていたような気がするが、今回はどうか。

(事務局)

フェスティバルコートに小金井市介護事業者連絡会に手配していただいてキッチンカーが来る予定である。

(森田和道委員)

調整中である。

(斎藤委員長)

楽しみにしている。

ほかに特になければ、次に移りたいと思う。

(5) 認知症施策事業推進委員会について (報告)

(事務局)

(資料5) 9月17日に開催した。本委員会は設置要綱を定めて実施している。令和6年度に認知症基本法が施行され、その法の趣旨を踏まえて、認知症の本人の意思を尊重し、またその家族の方も含めて住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、認知症の各種施策を検討し、議論いただくための委員会である。

委員長には医師会代表の竹田溪輔氏が選出され、副委員長に歯科医師会代表の平田氏が選出された。

当日の主要な議題は、認知症施策事業推進委員会の位置づけと概要についての確認、小金井市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画・認知症施策推進計画の確認と、介護保険事業計画が来年度策定されることに伴い、この秋から市民及び介護事業者等に実施するアンケートの認知症に関する部分の内容について意見をいただき、また、検討いただいた。このアンケートは11月頃から実施される予定である。当日は、新しい認知症観に基づいた内容にもう少し質問項目を修正してはどうかという非常に建設的な意見を

いただき、この意見を受けて計画そのものを検討している介護保険運営協議会に報告した。またお元気サミットの認知症啓発に関する部分等の説明も行い、意見等をいただいた。

(斎藤委員長)

認知症施策事業推進委員会ともなるべく連携を取っていきたい。

委員長から何かあるか。

(竹田溪輔参考人)

初めて本委員会に出席した簡単な感想として、一番の問題は、認知症の方がこれからどんどん増えていくなかで、そのような方が対処法が分からず、どこからどうアクセスして誰に頼ったらいいか分からないところだと感じた。私も半年ほど前に認知症サポート医の資格を取りに行ったが、よく考えてみると、クリニックのホームページにあまり認知症のことは書いていないということに会議等に出席して気づいた。医療機関で認知症の診療を積極的にやっていることを周知しているのは市内で総数の多くない脳神経外科や心療内科で、そうすると認知症の方の診断やサポートするための入り口になれるような医療機関を増やし、それを周知をして、導線を増やしていくことが大事だと感じた。私のクリニックのホームページにそのことが記載されていなかったが、認知症についての診療を行っていることをアピールしていくことを自院でもまずやっていこうと思っている。会議を通して認知症の診療の入り口、ルートをもう少し市民に周知できればいいのではないかと感じた。

(斎藤委員長)

診療については確かに積極的にアピールしている医療機関は少ないと思う。診療や患者本人がどう困っているかということと同時に、これからは共生社会ということで認知症の方々をインクルードした社会をつくっていくために、市民に接し方等もどんどん啓発していく必要がある。その意味で今度のお元気サミットの企画「認知症世界の歩き方」は大変よいと思う。

(斎藤委員長)

森田和道委員のところは子供から認知症の高齢者まで一緒に過ごしていると思うが、何か意見や感想はあるか。

(森田和道委員)

保育・介護を1つの空間の中でやっており、介護のほうは認知症の方々専門のデイサービスで、今はその場所を地域に開放しているので、小学生が毎日出たり入ったりしている。認知症の高齢者のところに子供が出たり入ったり、園児と一緒に過ごしたりという感じである。この子供たちが社会の中心になったときに認知症の方々への社会のまなざしが変わってくればよいなという願いを込めながら日々やっている。

(斎藤委員長)

ほかに何かあるか。

3 その他

(事務局)

1点目、今日会場で参加の方には机上配付したが、「新春市民のつどい」について案内させていただく。明年1月7日午後2時から宮地楽器ホールにて開催される。詳細についてはチラシを御覧いただき、ぜひ参加いただければと思う。

2点目、次回会議の日程について、本会議は年3回の予定をしており、3回目については令和8年2月12日(木)の開催としたいが、いかがか。

(斎藤委員長)

現在すでに都合がつかない委員はいるか。

(なし)

(事務局)

では、この日程で決定とする。

(事務局・川崎氏)

小金井市在宅医療・介護連携支援室の立場についての確認とお願いである。

部会で企画する研修の周知の仕方については、今までは支援室からすべて発信していたが、せっかくなので、様々な団体の代表である部会員の皆様に研修の案内を流していただくことも今後検討していきたい。協力していろいろな研修を実施していければと思う。

(斎藤委員長)

なるべく裾野を広げていきたいところだ。

ほかに何か意見はあるか。

4 閉 会